

質問① どんな子ども暮らしやすい西宮を考える会 作成資料

2022/11/24 懇談資料／どんな子ども暮らしやすい西宮を考える会

「インクルーシブ教育」って、大変そう、というイメージがあるかもしれませんが…

- ×子どもを「普通」に変えること
- ×先生が必死でがんばること
- ×障害のある子(人)だけのもの
- ×障害の“ない”子が我慢して受け入れること

いずれも誤解です…

**障害のある子もない子も先生も、だれもが過ごしやすい学校(社会)にみんなで変えていくこと。
普通学校、普通学級自体の環境を根本的に見直すこと。**

そのうえで、みなさんと一緒に考えたいのは…

地域の学校に入るのに、みんなとともに学ぶのに、「保護者が戦わなければならない」現状。

◎「判定」と呼ばれる就学支援委員会からの「意見」が、希望に関わらず出されてしまう。

(本人・保護者が地域の学校を希望していても、「特別支援学校」という判定[意見]が出されてしまうと、教育委員会のかたとの面談が必要になり、その手前であきらめてしまう人もいます)

※芦屋、豊中、箕面市などは「全員地域校で就学通知」「希望者のみ支援学校」

◎本来の“相談”が難しい就学相談

「どうしても地域の学校に行くと言うなら、入学後も懇談(三者面談?)のたびに『本当に、今からでも支援学校に行かないのか』を聞きます」

「学校からの要請があれば、親は協力すること」

「サポートする人をつけたいなら親が見つけてくること」

◎「中学に学校協力員は配置しない。」「協力員という制度自体がない」

理由その①小学校に予算をとられ、お金がない。

理由その②誰の手も借りず“自立”できるように…

※現在は、必要な支援を受けながら協働的に暮らすことが「自立」とされています。



◎「合理的配慮」が、まだまだ理解されていないように感じます。

“サービス”ではなく、大きすぎる負担のない限り「提供しなければならない」とされているものです。

「小学校で配慮してもらっていても、中学ですてもらえるとは限りません」

「中学校は、空き教室などでの休憩はできません」

「図書室は鍵がかかっているので入れません」「上靴は、見た目が似ているものでないと」

◎ほかにも…

「通常学級に来たら、周りの子に迷惑」「周りの子も塾通いなどで忙しく、人を助ける余裕はない」

小学校での「個別の支援計画」を見せたが、その場で即座に「できません」。 など…

背景にあるのは、少なすぎる教育予算、競争的&暗記中心の入試制度などで、「先生も子どもも、誰もが余裕がない」ということ。「障害のある子がいたら、周りの子も先生もますますしんどくなる」…ではなく、みんなが過ごしやすい学校、助け合って生活できる学校にするには、環境や制度、予算の使い道や意識をどう変えればいいか、一緒に考えていけたら幸いです。

